

平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】 【教科 国語】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT 機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">授業には集中して取り組んでおり、積極的に発言をする生徒が多くいる。漢字や文法事項などは、すでに習ったものでも忘れてしまっている生徒が多い。使える言葉の数が非常に少なく、文章の読み取りの上でも、書かれた内容とその把握が乖離する場合が多い。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- 既習事項を復習する機会を、授業や長期休業中の課題などで増やしていく必要がある。
- 語彙を増やすために、辞書を引くチャンスや授業の中で言葉のイメージを定着させるような取り組みをたくさん行う必要がある。
- それらを踏まえて、文学作品や説明文の内容を確実に把握する機会を増やす必要がある。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
漢字の習得	<ul style="list-style-type: none">小学校の漢字から総復習し、定着を図る
使える言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none">授業内で国語辞典を活用する機会を増やし、その言葉がもつ意味を自分のものにするような場面を増やす。
読み取りの重視	<ul style="list-style-type: none">生徒同士の交流を増やし、場面や説明されている内容を頭の中で映像化するような機会を多くもつ。

平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】 【教科 社会科】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">授業規律は確立されている。授業を楽しみにし、活発に発言等をする生徒が多い。宿題や課題等、責任をもって提出する生徒が多い。基礎的知識の習得と定着および社会的事象、社会全般の出来事に対する関心の程度に個々の差が大きい。各資料から必要な情報を選択し、それを読み取りまとめ表現する力が不足している。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- 既習の基礎的、基本的語句や内容の理解、定着を図るため、様々な場面で復習の機会を増やす必要がある。
- 適切な資料を収集、選択し読み取る力を伸長させる必要がある。
- 家庭学習の習慣を定着させ、内容、質をより充実させる必要がある。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎基本の定着	<ul style="list-style-type: none">前時の学習内容の要点、重要語句等を授業内において確認する時間を設ける。定期テストにおいて、基本的な内容の定着を確認する。随時、復習ワーク等を用い基本的な内容について反復し定着を図る。
資料を読み取る力の育成	<ul style="list-style-type: none">様々な資料に接する機会を増やす。資料の種類や特徴、読み取り方等、基本的な知識と技能を習得させる。適切な資料を選択し、内容を的確に読み取り発表する場面を設ける。読み取った内容をお互いに意見交換することにより、多面的な見方、考え方ができるよう指導する。
家庭学習の習慣の定着	<ul style="list-style-type: none">短時間でも取り組める学習課題を設定する。取り組み状況をノート回収等により確認し、評価する。家庭学習の課題に関わる発問等を多く設け、取り組む意欲を高める。

平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】 【教科 数学】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	授業内では、内容を理解しよう、与えられた課題に取り組もうという姿勢が見られるが、日ごろの家庭学習時間が不足している。授業内では理解していてもその後の定着が進まず、特に前年度に学習した内容を活用する課題などは、苦手な傾向にある。
「東京ベーシックドリル (小6問題)」	平均正答率で比較すると、本校は51.6%であり、立川市全体の49.4%を上回った。領域別で見ても、「A 数と計算」が4.4ポイント、「B 量と測定」は2.5ポイント、「C 図形」は2.8ポイント、「D 数量関係」が0.3ポイントと、いずれもわずかながら市平均を上回る結果となった。しかしながら、ACDの領域は正答率5割を超えたが、「B 量と測定」の正答率だけは38.5ポイントと、4割に満たない結果となった。このことから、グラフや表などの読み取りや単位などの復習を日ごろの学習活動に取り入れる機会を増やす必要性を感じる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

分析結果から、基礎計算力は多少の差はあれど、概ね身に付いていると考えられる。しかし、表を読み取ったりグラフを活用したりするなどの応用問題に苦手意識がある。また、家庭学習の習慣も身に付いていない生徒が多く、宿題やワーク提出などの課題を定期的に出題することで、定着を図る必要性がある。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
授業規律の確立と 学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none">規則正しい生活習慣の確立、授業内・朝学習等による反復練習の徹底
個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none">毎時間、習熟度による個人指導の徹底(知識・理解、技能・考え方)特に生徒の苦手分野(基準量・比較量・割合など)においては、関係する内容を学習するたびに復習する。
人権感覚の重視	<ul style="list-style-type: none">できるだけ考えさせる課題を提示し、考える習慣を身に付けさせる。また、つまずき箇所の確認・復習等の問題により、基礎・基本を定着させる。

平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】 【教科 理科】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT 機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">授業には集中して取りくみ、発言も多いが、発言をする生徒が決まってきた。既習事項が定着していない生徒が多い。既習事項を元に思考すること、実験結果から考察につなげることが苦手な生徒が多い。実験器具の取扱いについては、おおむね満足できる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

学習習慣や基礎学力が定着していないため、それらの既習事項を活用することが十分にできていない。実験結果を適切に処理する力、結果から考察する力、自分の言葉で表現する力が十分でない。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none">小单元ごとに、知識定着のための小テスト等の実施。(年間 10 回、20 問程度)
思考力の育成	<ul style="list-style-type: none">実験後に考察する時間を十分にとる。定期考査で記述問題やグラフを利用する問題を出題する。実験や観察後にレポートを作成する。

平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】 【教科 英語】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	授業では、話す活動であるペア活動・発表には、積極的に取り組む生徒が多い。授業規律が、確立できていない少人数クラスも散見される。書く、読む活動になると、極度に意欲が低下する生徒が多い。家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多い。
児童・生徒の学力向上を図るための調査	問1が154/160人と正答率が非常に高い。全体の平均正答率は約95%であった。特に、正答率の低い問題は、問4(42)、問5-1・2(ともに59)、問8-1(67)、問11-3(68)、問12-1(73)、問12-3(64)であった。興味関心は高いが、その他の領域は低いのが現状であると言える。

3 生徒の学力・学習状況等の課題(上記分析を踏まえて)

話す活動では、積極的に取り組む生徒が多く、英語学習に対しての意欲は感じられる。しかし、家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多い(勉強の仕方がわからない生徒もいる)ことが一番の課題であると考え。英文をしっかりと理解したのちに、覚えていくといった順序を大事にしたい。家庭学習の習慣が身に付かなければ、学習の内容は定着しない。また、読む力・書く力は家庭学習での定着がなければ向上しない。生徒の英語学習に対してモチベーションが上がる、生徒参加型の授業を展開する必要がある。家庭学習をけん引する授業が必要であると考え。

4 授業改善策(上記課題を踏まえて)

改善項目	具体的な改善策
基礎・基本の徹底した授業	・ 授業内で学習事項の内容理解と理解した内容を徹底的に音読し、ある程度まで授業内で定着させる時間を、様々な参加型の活動を通して持つ。こうすれば、生徒は、ある程度定着した状態で、楽に家庭学習に取り組むことができる。
解りやすい授業	・ 理解できない生徒が放置されないように、理解していない生徒がいれば、適宜、その場で日本語で簡潔な解説を加えるなどする。生徒がペア活動をおこなっている間の、机間指導中に、理解できていない生徒をケアする。
生徒の好きな言語活動を中心とした授業	・ 本校の生徒の特性を考えれば、「英語でもっと話せるようになりたい」という気持ちが、生徒を主体的な家庭学習に導くと考える。授業内で生徒が好む「運用(言語活動)の時間」も十分にとり、モチベーションをあげる。

平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】 【教科 音楽】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT 機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	多くの生徒が授業における規律やルールを守り、意欲的に取り組んでいる。また、昨年の課題でもあった音楽基礎知識の理解に個人差が生じているが、全体表現の方法をどのように工夫すれば良いのか、迷っているようである。一方で授業を楽しみに来ている生徒が多く、実技面では個人それぞれ実力を付けてきている。しかし音程が不安定になる等、まだ個人差はあると感じているが、全体指導を繰り返し行うことで解消できることと考えている。器楽面においては、興味をもって取り組んでいる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

各領域・分野に応じて、様々な指導を行っているが個人差がある。例えば歌唱においては、声の響きを感じ取ることや双方の声を聴きながら音程を合わせていくことが、あまり身に付いていない。また、音楽を表現することの理解が不十分であると感じている。また鑑賞では、曲想のイメージを感じ取って聴くことができているため、描写音楽を中心に鑑賞を進めていきたいと考えている。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎・基本、 技能の向上	<ul style="list-style-type: none">音楽基礎知識の定着を図るために、随時、授業毎に問題を出題する。発声練習を充実させ、綺麗な声で歌えるよう発展的な技能を身に付けさせる。合唱を通して核となるリーダーを育て、お互いに学び、高め合う姿勢を作る。
表現の工夫	<ul style="list-style-type: none">歌詞を声に出して読み、「言葉」と「歌詞」の違いを感じ取る。歌詞の意味を理解することで、伸び伸びとした歌唱へ繋げられるようにする。より高度で豊かな表現ができるよう、さまざまなアプローチで音楽的要素の定着を図る。

平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】 【教科 美術】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT 機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">新たな課題に対して習得した技法を使って意欲的に取り組んでいる。美術の広がりや美的体験が身に付いていない生徒がおり、想像力を十分に引き出せていない面が見られる。作業の進み具合の個人差が大きく、授業外での制作を必要とする生徒がいる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- 与えられた課題に対して、自己の想像力を働かせて美的に表現しようとする習慣が身に付いていない。豊かな表現力は、自らの発見において定着できるものであることを体験的に理解させることが課題である。
- 課題解決に対する見通しをもたせる取組を行い、目標をもって主体的に取り組もうとする態度を習慣化させるとともに、美的体験に基づく個性としての表現力を身に付けさせることが課題である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
見通しと 振り返りの工夫	<ul style="list-style-type: none">課題作品の主題をワークシートにフィードバックさせて、記録、スケッチさせることを通して、自分の良さを見付け、人との違いを認めさせ、個性としての表現力を身に付けさせる。
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none">豊かで効果的な表現方法が分かりやすく理解できるように、個に応じた制作のポイントをタブレットやビデオ映像を活用して視覚的に把握させる。生徒の優れた表現をタイムリーで紹介して、表現力を高める技法を理解させる。

平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生女子】 【教科 保健体育】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT 機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	各領域、単元、種目ごとに、運動体験が不足していたり、あるいは未経験であったりする生徒が見られる。特に、球技に関する経験が不足している。中でも、空間認知能力、捕る、投げるなどの動作を苦手とする生徒が多い。
東京都統一 体力テスト	本校の平均合計得点は48.7点となり、東京都平均とほぼ同じ、全国平均より2.7点低い結果となった。測定の種目では握力が全国平均より1.7ポイント低い傾向となった。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

各領域、単元、種目をバランス良く学習させ、それぞれがもつ特性を十分に味わうとともに、自己の能力を高めるための方策等を考えさせる。定期テストでは二極化が進んでいる。特に自分の言葉で説明する問題に関しては無回答者もあり、日頃から学習カードを活用し考えを記入する機会を増やし言語活動の充実を図りたい。そして日頃から体を動かす機会や関心をもたせることが課題となる。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
体力・学力の向上	<ul style="list-style-type: none">各競技の特性に応じた準備運動やコーディネーショントレーニングを取り入れる。各体力要因についての理解と各自の実態把握、毎時間の補強運動の実施。
基礎基本、技能の向上	<ul style="list-style-type: none">学習カードによる言語活動の充実により、思考力・判断力を養う。技能差に応じた課題設定と運動の特性理解と反復練習等による基礎・基本、技能の向上の定着。

平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生男子】 【教科 保健体育】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT 機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	各領域、単元、種目ごとに、運動体験が不足していたり、あるいは未経験であったりする生徒が見られる。特に、球技に関する経験が不足している。中でも、空間認知能力、捕る、投げるなどの動作を苦手とする生徒が多い。
東京都統一 体力テスト	合計得点が全国平均、東京都平均より低い結果となっている。「上体起こし」に関しては、Tスコアが50.6点と東京都平均より高い数値となっている。一方で、「長座体前屈」が全国平均 44.0 点に対して学校数値は 40.9 点と低い傾向にある。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

保健体育の授業での運動についての思考力・判断力では、教え合いを通じた言語活動を苦手とする生徒が多い。授業内でのグループ活動内の話し合いの機会を増やすなど、自らの考えを様々な場面でアウトプットできる生徒が少ないのが課題である。また、関心・意欲・態度の観点で見ると、苦手な分野に積極的にチャレンジをしない生徒が多い。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
授業規律の確立	<ul style="list-style-type: none">毎授業、ICT機器を活用して授業規律を明示する。
体力・学力の向上	<ul style="list-style-type: none">各体力要因についての理解と各自の実態把握、毎時間の補強運動を実施する。各競技の特性に応じた準備運動やコーディネーショントレーニングを取り入れる。
基礎基本、技能の向上	<ul style="list-style-type: none">学習カードによる言語活動の充実により、思考力・判断力・表現力等を養う。技能差に応じた課題設定と運動の特性理解と反復練習等による基礎基本、技能の向上の定着を図る。

平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 2 年生】【教科 家庭】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT 機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	ほとんどの生徒が授業における規律を守り、意欲的に取り組んでいる。ものづくりの好きな生徒が多く、意欲的に作業している。しかし、小学校で学習した技能が身に付いていない生徒や、用具がうまく使えない生徒もおり、実習作業の工程に個人差が生じている。遅れ気味の生徒は、説明の段階で理解できないことが多いので、説明後は必ず確認を行う、実物による指導を多くするなどして早めに遅れを取り戻す。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

ものづくりの好きな生徒が多く、実習作業への関心・意欲は高いが、作品づくりの技能には個人差があるため、進度に差が付きやすい。しかし、その技能差は説明段階での話の聞き方や集中力の工夫により改善されるということを伝えていき、実行させたい。実習作業の苦手な生徒に対しては、特に手助けとアドバイスをを行い、やる気を持続させている。また、失敗をそのままにせず工夫することで成功にもっていくことができることを教えている。授業では、基礎・基本を重視し、要点を板書し確認させていく。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
個に応じた指導	実習作業において、まず、説明を集中してしっかり聞き、分からないことはそのままにせず、積極的に質問をする習慣を付けさせていく。
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none">・ 利用頻度が高く、比較的つくりやすいバッグの制作をする。・ I T C機器を用いたり、実物を提示したりして授業を行い、学習内容の確認と定着を心がける。

平成29年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】 【教科 技術】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校における「確かな学力」とは、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力であり、人間形成の基礎・基本となるものである。

「見通しと振り返り」を重視し、「分かる授業」「工夫の見える授業」「個に応じたきめ細かな授業」(体験を取り入れた学習・問題解決的な学習・協働的な学習・ICT 機器の活用、言語活動の充実を図る学習等)を展開して学習意欲を高め、また基礎的な知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い「考える力」を育成する授業を目指す。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">・授業中は積極的で発言も多く、比較的活発な学習態度である。・聞く態度は良いのだが、十分な理解がされていない生徒も見受けられる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

発言も多く学習に対する意欲も感じられる一方、授業では理解していても知識の定着が不十分なため、定期考査等でミスをする生徒がいるのが課題である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
知識の定着	<ul style="list-style-type: none">・授業の始めにプレゼンテーションソフトを使用し、学習のねらいや授業の内容をより明確に知らせる。作業動画を視聴させることで興味・関心を持たせ、理解の定着を図る。
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none">・生徒が興味・関心を抱く実用的な教材として、昨年度好評だった「ウッディラジオ」の製作を通して、電気回路の学習と電気の安全な使い方を学ばせる。
作業形態の工夫	<ul style="list-style-type: none">・4人班で作業させ、助け合い学習を促し、お互いにスキルアップできる学習環境を築く。